

1月29日、東北大学大学院生命科学研究科准教授、酒井聡樹先生をお招きし、「これから研究発表する高校生のために」という題で講演をしていただきました。これから研究を進めていく私たちにとって必要となる知識や技術を細かいところまで教えていただきました。この講演を通して、70回生全員が研究に対する意識を高めることができたと思います。

「自分の興味」を「聴衆の興味」に

発表する際にはあくまで相手を考えることを心がける！！

(1) 序論の書き方

- ・研究の意義を認めてくれるかどうかの部分となる
- ・何を前にしてかを明確にする
- ・一つ一つ順序良く論を構築する
- ・「どのようにして、その問題に答えるのか」

(2) タイトルの付け方

- ・着眼点について言及する
- ・「研究の中身を読者に伝えること」が重要

(3) 結論を明確に

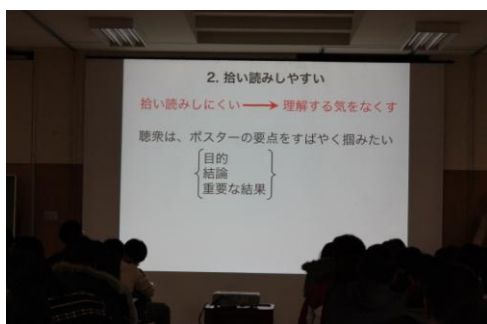
- ・序論の問題提起と結論を合わせる＝結論に序論を合わせる(研究結果が序論と合わない場合は序論を改変してもOK!とにかく序論と結論にずれが生じないようにする)
- ・「わからなかった」もまた結論となる

(4) わかりやすい研究発表のために

- ・順序良く、どのような情報を伝えるのかを前もって提示するよう心がける
- ・大まかな話から細部の話へと展開させていく
- ・文章での説明を避け、聴衆の目を惹きたい部分を目立たせるようにする

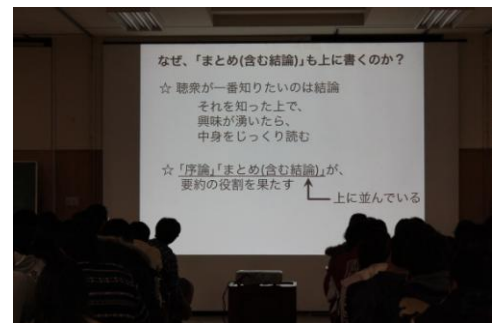
(5) わかりやすいスライド発表の作り方

- ・一つのスライドで一つのことだけを言い、情報量が多くなりすぎないようにする
- ・何に関するスライドで、何を言いたいのかがしっかりとわかるようにする
- ・大切なこと(見出し、そのスライドで言いたいこと等)はスライド上部に書く



(6) わかりやすいポスターの作り方

- ・聴衆に加えて実際の会場に配慮する
- ・すっきりとしていて拾い読みしやすいポスターは読んでもらいやすい
- ・5分程度で概要を説明できる内容に絞る
- ・視線の動きに配慮した構図にする(基本は二段組み)
- ・番号等を用い、情報間の対応を明確にする
- ・図表のタイトルと、その図表を元に言いたいことを書く



【生徒の感想】

・冒頭での「聴衆が興味を持つような研究発表にすること。自分の興味のためだけにやるのなら、自分で勝手にやりなさい。」という指摘で我に返った。他人に興味を持ってもらうこと、少なくとも、その分野の専門家に肯定してもらえるような研究をしなければ、それは「学術」ではないと改めて気づかされた。試験とは違って、自分が思いついたことや偶然発見したこと、そして他人に理解してもらえることに評価が左右される難しいものだとなった。自分自身も他人も興味を持つことができる研究対象の発見を目指して、二年に進級するまでに社会、環境など身の周りに対するアンテナを高くして過ごしたい。

・この前行った、災害研究を思いかえすとまだまだ至らない部分があったのだなあということが今回の講義を聞いて、最も感じたことでした。発表の主役は発表者ではなく、あくまでも聴衆であること、聴衆は冷たく、飽きやすい存在であることなど、自分のスピーチの概念が180°変わるような内容ばかりで、最後まで、興味が尽きない講義で、これからのゼミや将来の仕事においても役立てていきたいです。

・二年生での発表に役立つ知識をたくさん得ることができました。今まであまり気にしていなかったことや聞いて驚いた点などがありました。例えば、研究のタイトルはあまり考えずに決めてしまいがちですが、取り組む問題と問題解決のための着眼点を聴衆に分かってもらうための大事な部分であるそうです。また、ポスターのレイアウトは基本二段組構成で、聴衆が見やすいように序論とまとめを一番上にもってくるというそうです。他にも、意外な点がありましたが、どれもこれからの研究にかかせないことばかりでした。絶対に参考にします。

・今回の講演を聞いて、聴衆に研究内容を知りたいと思ってもらうことが重要なのだと分かりました。研究の発表は聞いてくれる方がいて、はじめて成り立ちます。そのため、何についての発表をしているのか、そして伝えたいことが見てくれた人に伝わるために、ポスターを序論とまとめを上書き、二段構成で書き進めていくなどして工夫し、視線の移動を減らすことでより見やすいものになると分かりました。この講演会で学んだことを、これからのポスター作成や発表に生かしていきたいと思います。また、発表を見てくれる人の存在を意識していきたいです。

・ポスターの作成や発表のときの注意点を知ることができました。聴衆の目を引くために、文字の色や大きさをかえ、図を使うことなどでわかりやすくすることができると分かりました。また、聴衆の視線の動きを考えることで、研究の内容を伝えることができるそうです。二年生でもポスターの作成や発表があります。今回の講演で得たことを生かし聴衆が読みやすい物を意識しつつ、今年作ったポスターより良い物を作りたいと思います。

【編集後記】

今回の講演会を通して、一学年は、これからの学術研究の活動に向けての様々な役立つことを学べたと思います。また、新たな知識が増えただけでなく生物実習や災害研究のときの自分の反省点をたくさん見つけたことと思います。酒井聡樹先生にポスターの書き方などについてわかりやすい説明をしていただいたので、みなさんも相手に伝わりやすい発表をするように心掛けて、来年度の発表にのぞみましょう。また、これからどんどん来年度の研究に向けた準備が始まっていきます。先輩方のような良い研究ができるように頑張っていきたいと思います。